
とある宝石店にて

ヒキキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある宝石店にて

【コード】

N7685Q

【作者名】

ヒキキ

【あらすじ】

ちよつと控えさせてもらいます。

(前書き)

後書きはまだ見ないでね。

ここはとある大きな宝石店。金持ちを歓迎。文無しは来んな、出てけ。

今日もこの店にはさまざまな客層が伺える。静かで上品な雰囲気なマダムに、いかにも成金上がりのちやたちやらとした軽薄な男。でも金持ち歓迎よ。

ショーケースの中に並ぶ宝石は輝きを強く放ち、多くの客を魅了し続けるの。

することもないので、店内を見渡していると、入口から男と女のカップルが入店して来た。

女の方は、高級なブランド物のバッグや時計をしているのは分かる。でも、その輝きに持ち主が負けている。全然華やかじゃない。品格が欠けているとも言うのかしらね。おまけに男遊びが激しそう。私の見立てでは、ビッチね。私の方がよっぽど輝いているわ。

男も男もね。高級そうなスーツに金ぴかの腕時計をしており、金持ちだと一目で分かる。でも、そのヘラヘラとしたニヤケ面はいかにも頭が弱……いや、ハッキリ言うのが優しさね。バカに見えるわ。お似合いのバカップルよ。

その二人のカップルは私のところにやって来た。そしてよく見る

と、この男はこのお店の足繁く運んでくれる常連だった。

しかも面白いのは、お店に来る度に女が変わっているということ。毎回プレゼントして振られているのだろうか。こいつ、本当に女を見る目がないわね。

この男にはたくさんの宝石を買われて行った。ルビーのネックレスや、サファイアの指輪と、あげだしたらキリがない。

女が何か宝石をご所望のようで「買ってよ、買ってよー」と、連呼する。

男も男だ。「どうしようかなー？」と言いながらも、既にスーツの懐に入った財布に手が伸びてるじゃないか。バカなの？ 救えないほどバカなの？ 腹立つんだけど。

女がショーケースの中をじっくりと見ていく。今の彼女の目は、宝石のように輝いていた。

すると、「これがいい！」と、指差したのは、……私だった。

瞬間、私の胸内で『マジ!?!』と声が漏れた。

「冗談じゃない。私はトータル10カラットの豪華なダイヤの指輪よ!?!」

本気で言ってるの？

この女になんてガラスで十分じゃないの？

……そんなこんなで、私は女の指に嵌っているわけで。買った瞬間にすぐに指に嵌めたの。このまま指をねじ切ってやりたいくらいだわ。

男は「似合っているよ」と彼女に言う。黙ってください。

女は「でしょ」と、嬉しそうに言った。やれやれね……。

金持ちは歓迎。でも、私たちだって、持ち主と一緒に永遠に輝き続けたい。出来るなら、分相応の人に買ってもらいたい。でも、まあ、これも受け入れるしかないのだけど。それでも釈然としないわね。

ああホント、このバカップルは見る目が無いわね。

(後書き)

視点を工夫してみたつもりだが、即興で書いた分少し粗い。もうちょっと技術を身につけたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7685q/>

とある宝石店にて

2011年10月8日18時14分発行